

価値創造産業の 経営をデザインする。



Business Design
and Management



早稲田大学大学院 創造理工学研究科
経営デザイン専攻

Department of Business Design and Management
Graduate School of Creative Science and Engineering, Waseda University



価値創造産業の トップマネジメントへの路、 経営デザイン専攻。

INDEX

ミッション&ビジョン	P.01
経営トップからのメッセージ	P.03
教育システムと履修領域	P.05
科目と教育方法	P.07
教員紹介	P.09
修了要件・開講時間	P.13
履修プログラムと入試制度	P.14

近年、欧米を含めた各国は、製品・サービス提供のための革新的『モノづくり』技術こそが国の競争力の基盤であるとして、改めてその強化に取り組み始めています。これまで日本企業が培ってきたモノづくり技術の重要性が改めて認識されたと同時に、そのさらなる強化が求められているといえます。日本企業数百社を対象として毎年行われている「当面する経営課題に関する調査（日本能率協会）」の結果からも、「グローバル化の進展や社会的責任が増す中で、有効な研究・開発を行い、新製品・新サービスを着実に産み出すこと。さらに、商品化・事業化を成功させ、生産・供給のバリューネットワークが効率的に機能するように、柔軟にマネジメントシステムを構築・運営すること」が求められており、そのための事業創造・改革を推進できる構想力・構築力を有した人材の育成

が必要とされていることが分かります。

このように、モノづくり技術に基礎をおいた価値創造事業マネジメントを担うことのできる技術者を養成する、実践的な教育の必要性は増すばかりです。

本学では、1935年に工業経営分科を設立し、それを引き継いだ経営システム工学科・専攻が、我が国における経営管理技術の学術的発展・人材育成の一翼を、長年にわたって担ってきました。本専攻は、これを基礎にして、さらに上記の今日的経営課題に取り組むための価値創造事業マネジメント技術について、一般学生はもちろん社会人も対象として実践的な教育・研究を行うために設立されたものです。

創造理工学研究科経営デザイン専攻、それは価値創造産業のトップマネジメントに通じる新しい路です。





産業界は、リーダを待っている。

イノベーションを牽引する
総合力と実践力を



グローバルでのボーダーレスな戦いが繰り広げられる中、ビジネス界の変化のスピードは驚くほど加速されています。多様な変化の中での即断即決が生死を分ける、厳しくもあり、そして新しいドラマも生まれる時代です。その変化の中で、いち早く兆しを捉え、イノベーションを起こしたものがデファクトをつかみ、世界をリードすることができます。そのためには、総合的な視野、物事の本質を見抜く力、それを支える科学力がますます重要になってきており、経営デザイン専攻の理念は、まさにそれらを鍛えていく実践的かつ総合的な力を高めるものだと思います。これからも世界に変化をもたらす人材が輩出されていくことを期待しています。

株式会社デンソー 経営役員
サーマルシステム事業グループ長

山崎 康彦

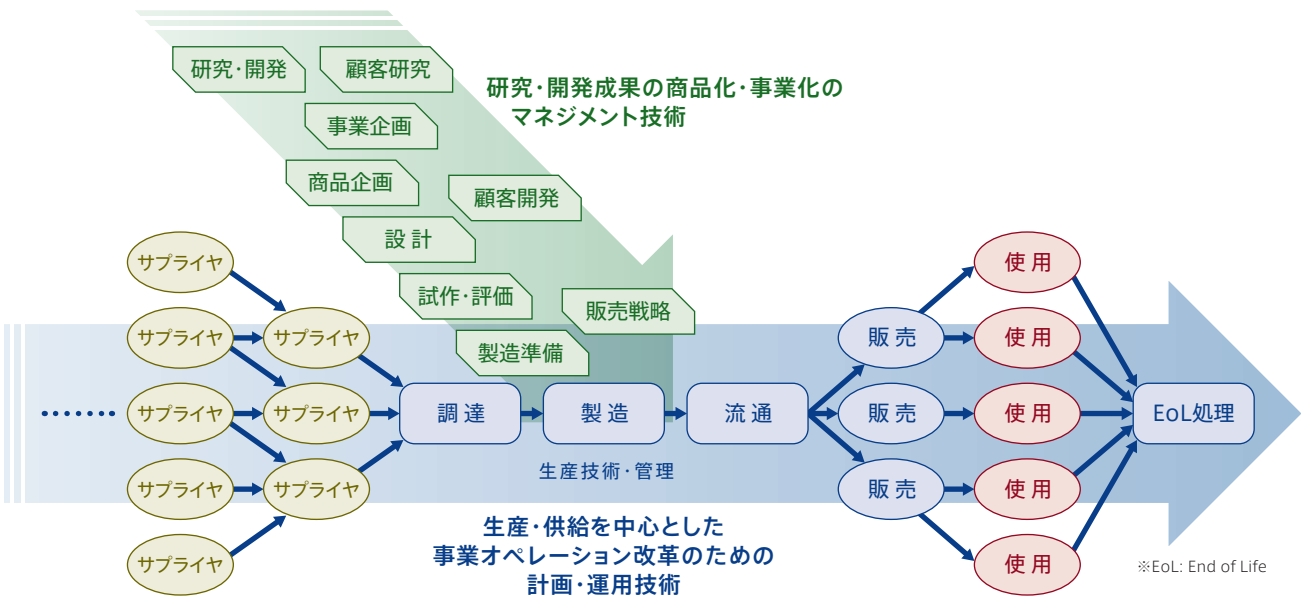
事業企画に問われるのは 総合力だ

早稲田大学を卒業して約40年間、主に研究開発部門を歩いてきました。その間、ITなどのインフラの整備やグローバル化が急速に進み、我々ができることは桁違いに大きくなりました。

これからの時代、総合力が問われます。学生時代に固有技術に加え、事業企画・技術の応用／商品化・経営手法などに触れておくことの重要性を今さらのように感じます。経営デザイン専攻の理念・教育内容は社会の要求に合致し、かつ必要欠くべからざるものと確信します。

元 第一三共株式会社 取締役専務執行役員

荻田 健



世界No.1のアパレルSPA（製造小売）を目指し、ユニクロを中心としたSPA事業のグローバル戦略を推進しています。

グローバル市場を勝ち抜くには、店舗開発、マーチャンダイジング、デザイン、商品開発、マーケティング、生産、ロジスティクス、物流、販売が、高度に連動することが要求され、最先端のマネジメント技術が不可欠です。

経営デザイン専攻は、有力企業とのプロジェクト等を通じて、現存する経営課題の解決を実践されています。即戦力として通用するマネジメント力を身に付けた人材が、ここから世界へと大きく羽ばたくことを期待しています。

ファーストリテイリング グループ上席執行役員

コントワー・デ・コトニエ グローバルCEO

プリンセスラム グローバルCEO

國井 圭浩

グローバル市場が求める
最先端のマネジメント技術を

練り上げた教育システムで、 次代のリーダを育てていく。

■ 大学院プログラムの特徴と教育対象者

経営デザイン専攻の教育プログラムは、「研究・開発成果の商品化・事業化のマネジメント技術」と「生産・供給を中心とした事業オペレーション改革のための計画・運用技術」からなる、「モノづくり技術に基礎をおいた価値創造事業マネジメント」の実践的教育・研究を、以下の人を対象に行っています。

- 学部で経営工学の基礎を学び、事業経営技術の専門家を目指す学生。
- 学部で固有技術を学び、将来、技術系企業において、製品開発や生産・供給などを担う技術者をを目指す学生。
- 実務の場で、商品化・事業化、あるいは事業オペレーションシステムの計画・運営などに関わっている社会人。

理論系に強みのある学術分野でキャリアアップした教員に、企業経験者で実務経験豊富な教員が加わったチームによる教育・研究指導体制を構成し、価値創造事業マネジメントについて、PBL (Project Based Learning) 形式を中心に据えたカリキュラムのもとで、以下の目的を持って実践的な教育・研究を行っています。

- 事業創造・事業改革に焦点をあてたカリキュラムによる、専門知識・技能の向上。
- 演習・ケースに重点を置いた、問題発見・課題解決能力の向上。
- ビジネスを疑似体験する研究課題による、実践力の養成。
- グループワーク課題による、チームマネジメントとリーダーシップの涵養。

本専攻の修士修了者（一般学生）の進路としては、製造業、流通・運輸産業、健康・医療産業、コンサルティング機関などです。

修士課程での到達目標

経営工学を学んだ学生

事業経営に必要な
マネジメント技術力の修得

固有技術を学んだ学生

経営センスのあるテクノロジストに必要な
マネジメント基礎力の修得

社会人

技術ベースの事業経営リーダーとしての
マネジメント総合力の修得

博士後期課程での到達目標

革新的な経営技術の研究開発を行うことのできる
事業経営技術のスペシャリストとしての能力の修得

授与学位

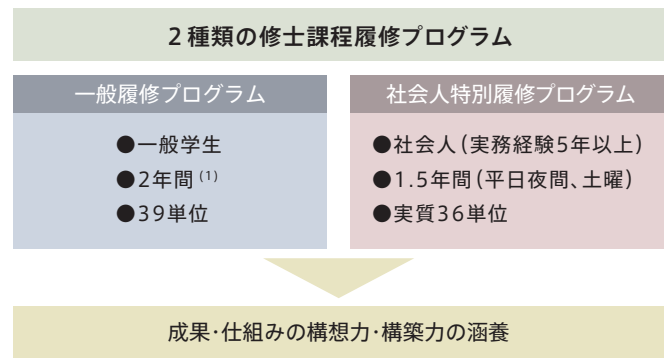
修士（経営工学）
博士（経営工学）



2種類の修士課程履修プログラム

経営デザイン専攻では、より実践的な知識・能力を習得することを目指して、充実した演習科目を数多く設置しています。その結果、一般的に修士の学位を取得するために必要とされる30単位に比べて、39単位というより多くの科目の履修が必要です。

また、本専攻には、2年間での履修を原則とする一般履修プログラムと、実務経験5年以上の社会人を対象にして、平日夜間および土曜日のみで1.5年間での修了を可能とする社会人特別履修プログラムの、2種類の履修プログラムがあります。社会人特別履修プログラムでは、実務家向けの修士論文テーマ、実務経験に基づく研究指導演習での学習量の軽減など、社会人の勉学を容易にするための工夫をしており、実質的に30単位の学習量での履修が可能です。



(1) 講義科目、プロジェクト研究演習などは、社会人特別履修プログラムと同様に、平日夜間および土曜日の履修となりますが、研究指導演習などは、平日昼間の履修となります。

履修領域の構成

経営デザイン専攻のカリキュラムは、4つの専門領域と事業経営領域の科目から構成されています。専門領域は、モノづくり技術の基本を「研究・開発成果の商品化・事業化のマネジメント技術」と「生産・供給を中心とした事業オペレーション改革のための計画・運用技術」に大別し、それぞれをさらに2領域に分類したものです。

◎履修領域の構成



学生は、自己の進路あるいは担当業務に合わせ、上記5領域のいずれかに重点を置いて、履修計画を立てます。各自、主領域と副領域を選択し、それらの領域の科目を集中的に履修するようにします。同時に、モノづくり技術に基礎をおいた価値創造マネジメント技術の全体像を把握できるように、各領域に設けられた必修科目を履修します。

研究・開発成果の商品化・事業化のマネジメント技術

① マーケット・顧客開発領域

マーケットの分析、顧客ニーズの把握や開発などのニーズ指向の事業化マネジメント技術だけでなく、技術ベースの事業化マネジメント技術、さらに、今後の技術動向の把握・検討に基づく共同開発、ライセンス利用等の技術アライアンスマネジメントなどの技術を学びます。

② 製品・サービス企画・開発領域

価値創造企業にとって利益の源泉となる、顧客価値の高い製品とサービスを融合した商品開発プロセスのマネジメント力を身に付けるため、製品・サービスの企画・開発プロセスマネジメント、利用品質設計、価値・コスト設計、知財マネジメントなどの技術を学びます。

生産・供給を中心とした

事業オペレーション改革のための計画・運用技術

③ SCM・ロジスティクスマネジメント領域

グローバルに展開する企業が、どこで何を調達して、どこで作り、どこで販売するかを計画するバリューネットワーク計画、およびそのロジスティクスシステムのデザインとマネジメント技術などを学びます。

④ 生産マネジメント領域

調達・製造・流通・販売などから構成される生産プロセスの革新のための、スケジューリング、発注・在庫マネジメント、ファシリティプランニング、および環境調和型生産マネジメントなどの技術を学びます。

事業経営

⑤ 事業経営領域

価値創造事業の経営に必要な基礎知識を、品質、ファイナンス・投資、知財、リスクなどの観点から学びます。

演習とケース科目で、 実践的な事業経営力を身に付ける。

■ 科目の構成

経営デザイン専攻における科目の構成は、問題発見・解決の実践能力の向上を目指した「演習科目」と事業マネジメントに関する専門知識・技能の向上を目指した「講義科目」に大別されます。

演習科目

□プロジェクト研究演習

専門領域に対応して設定された経営課題に対してグループワークを行う研究課題演習。

□研究指導演習

修士論文研究のために研究室で研究指導を受ける研究演習。

□経営デザイン演習

他研究室の教員と学生のアドバイスを受ける合同ゼミ。

講義科目

□ケース科目

◎技術系経営幹部講話

技術系のバックグラウンドを有した経営幹部が、自身のキャリアアップの跡をたどりながら、それぞれのレベルでの目標の立て方、課題への取り組み方などを教授する科目。

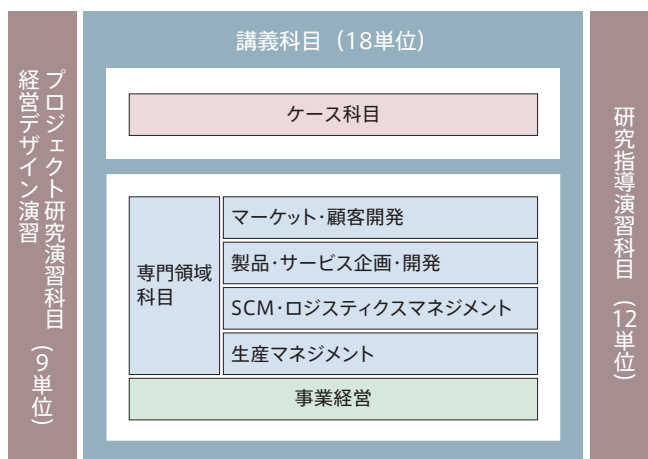
◎経営課題対応事例研究科目

技術系経営幹部が、経営課題に取り組んだ具体的な事例を、一定の

フォーマットに従って整理して教授する科目。

□理論科目

マーケット・顧客開発、製品・サービス企画・開発、SCM・ロジスティクスマネジメント、生産マネジメントおよび事業経営の5領域の科目。

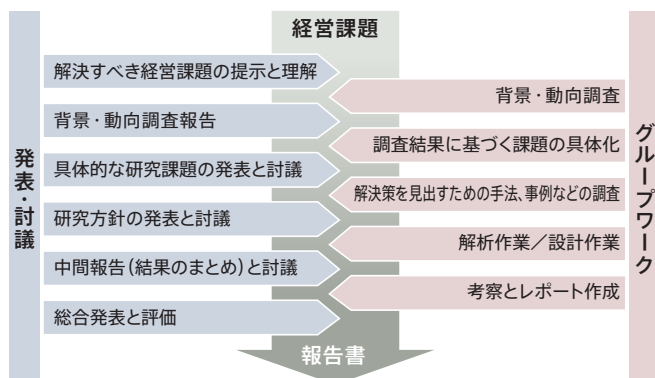


1 演習科目

プロジェクト研究演習

プロジェクト研究演習は事業経営のマネジメント場面を疑似体験し、設定した課題に理論・手法を適用することで実践力をつけることをねらいとしたPBL型の演習科目です。

演習科目ごとに設けられた研究課題に対し、4~5名の学生グループが授業時間外も含めて調査・分析、計画・設計などの研究作業を行い、授業時間中に研究作業経過報告や結果を発表・討議します。



※PBL: Project Based Learning

研究指導演習

主として修士論文研究のために、以下の研究指導を行います。

- ◎修士論文作成過程（テーマ決定から論文執筆・発表）における指導。
- ◎研究室の専門分野の知識・スキル習得の指導。
- ◎研究室での学習指導。

修士論文研究では、自分のテーマに応じた研究作業を行うとともに、研究室ごとのゼミに加えて全研究室が参加する経営デザイン演習での発表・討議を行います。さらに、中間発表、研究計画書の提出、論文概要および本論の提出、審査会での発表を行う必要があります。

経営デザイン演習

指導教員以外の専攻教員および他研究室所属学生の前での研究発表です。

研究背景、目的から課題解決、結果とその有用性について、回を追って説明し、他分野からの広いアドバイスを受けます。

2 講義科目

講義科目は、ケース科目（2科目）、理論科目（28科目）から構成されます。一部の科目を除き1単位科目で、100分の授業を7週

行います。講義科目全体で、18単位の取得が修士課程の修了要件となります。

◎経営デザイン専攻 講義科目一覧

ケース科目	技術系経営幹部講話	経営課題対応事例研究	
マーケット・顧客開発	カスタマーリレーションシップマネジメント:CRM	製品・サービス企画・開発	
	経営情報分析技法		製品開発マネジメント概論
	技術アライアンスマネジメント		商品・ビジネス企画設計
	先端技術産業分析		利用品質設計
		価値・コストエンジニアリング	
		製品開発情報システム	
		社会システム・サービスマネジメント	
SCM・ロジスティクスマネジメント	グローバル・サプライチェーン・マネジメント	生産マネジメント	
	サプライチェーン戦略		生産システム工学
	サプライチェーンのシステムと技術		ファシリティプランニング
	サプライチェーン・サービス設計		品質マネジメントシステム
	サプライチェーン変革		環境調和型生産システム
BPRのための分析・評価法			
事業経営	企業経営論	組織行動論	
	経営品質マネジメント	経営計画分析技法	
	ファイナンス・投資戦略論	イノベーション・デザイン	
	技術経営論	価値創造戦略論	

※赤字は、必修科目です。

□ケース科目の履修方法

- ・2科目とも必修科目です。

□理論科目の履修方法

- ・経営デザイン専攻がカバーする5領域全体を理解するため、それぞれの領域に必修科目を設けています。
- ・履修に当たっては、4つの専門領域から主領域を、また主領域以

外の専門領域と事業経営領域の中から副領域を少なくとも各1つ選び、それぞれの領域を系統的に学習します。

- ・主領域については、領域内の科目をすべて履修することを原則とします。
- ・副領域については、領域内の科目のうち少なくとも半数以上を履修することを原則とします。



Faculty Members

創造理工学研究科 経営デザイン専攻



大野 高裕 教授

TAKAHIRO OHNO

理工学術院 教授

大学にて一貫した実学的理論研究および企業・団体に対する経営指導・研修指導を行ってきた、実学指向の研究者。「利益の創り込み」の観点から、コストマネジメント、フィナンシャル・エンジニアリング、消費者行動モデル等の研究に取り組んでおり、研究対象業界もメーカーから医療、アミューズメントまで多岐にわたっている。専門は、経済性工学、マーケットモデルなど。早稲田大学工学部工業経営学科卒('78)、同修士、博士課程修了('86)、工学博士('88:早稲田大学)。

◎研究指導／プロフィットエンジニアリング研究

新事業、既存事業の改革を推進するにあたっては、長期・短期にわたる利益の確保（採算性の検討）が不可欠である。利益の創り込みのための工学、即ちどのように売上および原価を設計して実行するのか、といったことを評価するツールの開発が、今後とみに求められることになる。本研究ではこうしたツール開発の研究指導を行う。

◎担当授業科目

プロジェクト研究演習、
価値・コストエンジニアリング 他



大森 峻一 准教授

SHUNICHI OMORI

理工学術院 准教授

IE (Industrial Engineering)、OR (Operations Research) の研究、それを活かした形の施設計画、ロジスティクス、サプライチェーンマネジメント、サービス工学の研究に従事。企業における生産性改善プロジェクト、ロジスティクスネットワーク設計プロジェクト等に多数、また海外の企業・大学との共同研究・国際交流プロジェクト運営にも多数参加。早稲田大学工学部経営システム工学科卒('07)、同修士('09)、博士課程修了、博士(工学)('13:早稲田大学)。

◎研究指導／生産・サプライチェーンマネジメント研究

生産およびサプライチェーンマネジメントに関する研究を行う。「戦略レベルの意思決定」としてロジスティクスネットワーク設計・施設レイアウト設計、「戦術レベルの意思決定」として安全在庫配置・キャパシティ配分、「実行レベルの意思決定」として配送計画・発注方策・スケジューリングを対象とし、これらの問題に対して数理計画・最適化を中心に研究を行う。

◎担当授業科目

プロジェクト研究演習、
サプライチェーン戦略 他



野中 朋美 教授

TOMOMI NONAKA

理工学術院 教授

働きがいや満足を考慮した人の情報を起点とした生産システム設計、持続可能なビジネス・社会システムデザイン、食・地域資源を活用した価値共創などの研究に従事。応用研究から社会実装プロジェクトにも多数参画している。

慶應義塾大学環境情報学部卒、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科前期・後期博士課程修了(12)、博士(システムエンジニアリング学)。

◎研究指導/システム工学・サービス工学研究

持続可能なサービス・生産システム設計においては、短・中・長期視点と、俯瞰的な多視点から社会・環境の変化、技術進歩、人の気持ちや状態・価値感など、環境変動と多様性を考慮したシステムデザイン・マネジメントが不可欠である。サービス現場や工場の製造フロアなどを含む広義のサービス生産システムを対象に、生産性向上と付加価値創出の研究を行う。

◎担当授業科目

プロジェクト研究演習



棟近 雅彦 教授

MASAHIKO MUNECHIKA

理工学術院 教授

学生時代から現在まで、品質マネジメントの研究、教育に従事。企業との共同研究も多数実践。99年からは、医療の品質マネジメントにも取り組み始め、医療安全、医療QMSについて、病院との共同研究を進めている。感性工学にも取り組み、企業と新製品開発を実践している。専門は、品質マネジメント全般。対外活動として、デミング賞審査員、ISO9000シリーズ規格を作成するISO/TC176の日本代表エキスパートなどを務めている。東京大学工学部反応化学科卒業(82)、同修士、博士課程修了、工学博士(87:東京大学)。

◎研究指導/品質マネジメント研究

品質が良いとは、「要求との合致」であり、製品、サービスはもちろん、データ、文書等、人間の活動により得られる産物にはすべて品質の良し悪しが考えられる。本研究では、これらの産物の品質を高めるために有効な技法、概念の開発、改良を目指す。

◎担当授業科目

プロジェクト研究演習、
経営品質マネジメント、
品質マネジメントシステム 他



福重 真一 教授

SHINICHI FUKUSHIGE

理工学術院 教授

設計工学やシステム工学の視点から、製品とそのライフサイクルを総合的に設計し運用していくための方法論や計算機支援システムの研究に取り組んでいる。これまで多くの企業と製品開発プロセスや生産システムの改善に向けた共同研究を実施しており、現在は持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた産業政策立案のための国際共同プロジェクトなどに参画している。

東京大学工学部精密機械工学科卒、同修士、博士課程修了(06)、博士(工学)。

◎研究指導/ライフサイクルエンジニアリング研究

持続可能な社会にふさわしい製品やサービスを幅広く検討するとともに、そのような新しい人工物を設計しライフサイクルを通じて運用していくための方法論について研究する。サイバーフィジカルシステムに基づくライフサイクルマネジメント方法論、環境調和型製品設計のためのCAD、シェアリングサービスのシミュレーションなど、デジタル技術を活用した次世代型の設計生産システムの開発を目指す。

◎担当授業科目

プロジェクト研究演習、
環境調和型生産システム





鬼頭 朋見 教授

TOMOMI KITO

理工学術院 教授

複雑な経済社会における価値創造の実現と持続に関するさまざまな課題に対して、領域融合的なアプローチで取り組んでいる。ビッグデータ解析、ネットワーク科学、複雑系、シミュレーション、システム理論などを専門とし、近年は主に、イノベーションエコシステム、知財システム、サプライネットワーク、チームワークなどのレジリエンスやサステナビリティと、それらを構成する組織や個人の戦略の両方に焦点を当てた研究を進めている。東京大学工学部精密機械工学科卒、同修士、博士課程修了(07)、博士(工学)。

◎研究指導／価値創造戦略マネジメント研究

さまざまな不確実性やリスクのある状況下で、生産活動主体（企業・組織や人々）が価値創造を実現し、その価値を持続発展させていくためには、多様な主体同士が競争しつつも協力し合うシステムや仕組の構築が不可欠である。また、それぞれの主体がとるべき戦略も一様ではない。本研究では、個の多様性や関係の複雑性（ミクロ・メゾレベル）とシステム全体（マクロレベル）を繋ぐための理論や手法を習得し、さまざまな実課題について、データ解析やモデル構築の実現を目指す。

◎担当授業科目

プロジェクト研究演習、
価値創造戦略論



三原 康司 教授

KOJI MIHARA

理工学術院 教授

修士課程修了後、ソニー（株）に入社。20年間に亘りIT、PC関連の企画管理、工場オペレーションなどに従事。その後、インターネット端末とサービス開発企業を創業。経営・マーケティングコンサルタントとして、多くの新企画・新システムを設計・施行。2012年から、大学教員として経営システム工学分野の教育に携わる。専門は、サービスシステム設計、企画・発想法。早稲田大学理工学部工業経営学科卒(83)、同修士課程修了(85)、早稲田大学商学研究科博士後期課程満期退学、博士(商学)(11:早稲田大学)。

◎研究指導／製品・サービスシステム研究

製品／サービスの顧客価値は、高い機能価値と同時に、利用者に感性価値を提供することによって向上する。本研究では、主にサービス（コト：無形の価値提供）の顧客価値を向上するシステムデザイン（機能設計、感性デザイン）の研究を行う。一般的サービスのみならず、社会システム、経営システムなどにおける無形の価値を提供するシステムに関して、システム設計理論、品質管理、統計解析などの手法を活用し、理論・方法論・モデル構築などの研究を行う。

◎担当授業科目

プロジェクト研究演習、
商品・ビジネス企画設計、サプライチェーン・サービス設計



下野 僚子 准教授

RYOKO SHIMONO

理工学術院 准教授

品質管理を専門とし、医療や健康づくりなど、質や効率性がひとの判断や行動に大きく依存する業務について、業務支援システムやアンケートによって収集されるデータ分析をふまえ、エビデンスに基づく業務運営に資する研究を行っている。対外的活動として、公的統計の作成プロセスの診断を行う統計監理官(総務省)なども務めている。

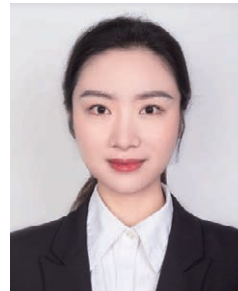
東京工業大学工学部化学工学科卒(05)、東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻修士課程修了(08)、同博士課程修了(11)、博士(工学)。

◎研究指導／社会システム・サービスマネジメント研究

サービスの多くは、人間の活動に依存する無形のものであることから、そのマネジメントでは可視化に基づく実証が重要である。様々な社会システムやサービスの質向上や効率化を実現するため、当事者との議論を踏まえた指標構築やプロセス設計、データ収集、統計解析による実証を通じた研究指導を行う。

◎担当授業科目

プロジェクト研究演習、
社会システム・サービスマネジメント



黄 茜 講師

QIAN HUANG

理工学術院 講師

グローバル・ロジスティクス・マネジメント(Global Logistics Management)に関する研究と教育に従事している。製造、物流、販売における異なる機能の間でのシームレスな「協働」システムの構築を実現するための研究を進めている。同時に、全体の効率性と強靭性に焦点を当て、貨物鉄道輸送を含むモーダルシフトの促進に向けた研究も進行中。

西南交通大学交通輸送と物流学部卒(07)、同修士課程修了(10)、早稲田大学創造理工学研究科博士課程修了、博士(経営工学)(22:早稲田大学)。

◎担当授業科目

プロジェクト研究演習、
サプライチェーン戦略





後藤 正幸 教授

MASAYUKI GOTO

理工学術院 教授 (兼任：経営システム工学専攻)
情報数理と経営工学の基礎研究分野をベースとしつつ、東京大学助手時代よりビジネスモデル分野の研究に携わる。武蔵工業大学環境情報学部では、ITを活用した教育、マーケティング分析、環境ロジスティクスなどの研究活動に従事。専門は、情報統計・情報数理、経営情報分析の基礎技術をベースとした経営工学、情報工学分野の基礎と応用。最近では、インターネット時代のマーケティング分析手法の開発や様々なネットマーケティングモデルの評価にも取り組む。
武蔵工業大学工学部経営工学科卒(92)、同修士課程修了(94)、早稲田大学理工学研究科博士課程修了、博士(工学)(00:早稲田大学)。

◎研究指導／経営情報学研究

マーケティング分析や戦略分析など、経営活動の諸問題を対象とし、経営情報学的な視点に基づく研究を扱う。経営の諸活動における情報技術の活用、並びに、日々蓄積される膨大な情報を分析して経営活動に役立てる技術、それらの情報分析技術を正しく活用する方法論についても研究対象とする。

◎担当授業科目

経営情報分析技法



小松原 明哲 教授

AKINORI KOMATSUBARA

理工学術院 教授 (兼任：経営システム工学専攻)
金沢工業大学教授を経て、現職。日本人間工学会認定人間工学専門家。専門は、人間生活工学。生活者を視座においた製品開発、生活設計、ワークシステム設計、ヒューマンエラー防止のための技術開発に取り組む。家庭、産業、社会などの人間の生活において、人が関わる人工システムの、人間・生活適合理化の開発方法論研究を行っている。
早稲田大学理工学部工業経営学科卒(80)、同修士、博士課程修了、博士(工学)(91:早稲田大学)。

◎研究指導／ヒューマンファクターズマネジメント研究

人間中心設計過程に基づく製品開発、ワークシステム設計を扱う。具体的には、人間工学および人間生活工学に基づく商品企画、製品設計、ヒューマンエラー防止、人的生産性向上等の方法論を研究する。

◎担当授業科目

利用品質設計



膳場 百合子 教授

YURIKO ZEMBA

理工学術院 教授
専門は社会心理学で、組織と組織構成員と外部社会の関係について、心理学的な観点から研究している。具体的には、組織の不祥事に対する一般の人々の反応が文化によってどのように異なるか、組織の信頼はいかにして回復されるか、集団と個人の関係に関する認知が文化によってどのように異なるかなど、組織行動に関わるテーマを研究している。
東京大学文学部社会心理学専修課程卒(94)、東京大学大学院人文社会系研究科修士、同博士課程修了、博士(社会心理学)(07:東京大学)。

◎研究指導／組織行動マネジメント研究

組織の不祥事に対する一般の人々の反応を研究する。一般の人々の反応を知ることが、社会に受け入れられる組織を設計していく上で重要である。具体的な研究としては、不祥事に対する一般の人々の責任判断、組織に対する信頼回復、組織内外の視点の違いがもたらす認識の乖離などを扱う。

◎担当授業科目

組織行動マネジメント演習



今、企業が抱える課題解決のためには、従来の枠(業務組織、企業、産業、地域)を越える構想、行動が求められています。大学院教育もこれに呼応する必要がある、当専攻では、これらを具現化する内容、仕組みが組み込まれています。例えば、

- ・より高い、広い視野を持ってもらうために、多くの企業経営幹部との接触機会の提供
- ・「自ら考える」を中心としたチームベースでの演習
- ・従来の専門分野の枠を越えた、研究指導体制等

皆さんの今後のキャリア形成の、大きなステップになるはずです。

客員教授

村山 徹

客員教授

池田 和明 KAZUAKI IKEDA

プロジェクト研究演習、
企業経営論

堀井 秀之 HIDEYUKI HORII

プロジェクト研究演習、
イノベーション・デザイン

小島 史夫 FUMIO KOJIMA

生産システム工学

村山 徹 TOHRU MURAYAMA

プロジェクト研究演習、
技術系経営幹部講話

非常勤講師

鹿島建設(株)

エンジニアリング事業本部 次長

赤木 宏匡 HIROMASA AKAGI

ファシリティプランニング

NAX JAPAN株式会社 シニア・フェロー

出口 幸之進 KONOSHIN DEGUCHI

ファイナンス・投資戦略論

(株)Sun Asterisk
Professional Development Unit,
Unit Manager, Senior Engineer

石田 浩章 HIROAKI ISHIDA

プロジェクト研究演習

(株)野村総合研究所

グループマネージャー

中川 隆之 TAKAYUKI NAKAGAWA

技術経営論、
技術アライアンスマネジメント 他

(株)関通 システム開発本部長

伊津見 一彦 KAZUHIKO IZUMI

サプライチェーンのシステムと技術

高千穂大学 経営学部 助教

中山 景央 KAGEHISA NAKAYAMA

プロジェクト研究演習

B-R サーティワンアイスクリーム(株)

管理本部長付SCM推進ディレクター

梶野 透 TORU KAJINO

サプライチェーン変革

合同会社SECA(エスイーシーエイ) 代表、

(株)エイジェック 総合研究所顧問、

(株)キャリアパートナーズ EHS総合研究所所長、

グリーン購入ネットワーク 代表理事

則武 祐二 YUJI NORITAKE

環境調和型生産システム

ゼビオホールディングス(株)

副社長執行役員

近野 泰 YASUSHI KONNO

技術経営論、先端技術産業分析 他

(株)日本能率協会コンサルティング

シニアコンサルタント 参事 RD&E統括

細矢 泰弘 YOSHIHIRO HOSOYA

製品開発マネジメント概論

立命館大学大学院

テクノロジーマネジメント研究科 教授、

(有)バリューマネジメント研究所 取締役・所長

澤口 学 MANABU SAWAGUCHI

プロジェクト研究演習、

価値・コストエンジニアリング

東海大学 政治経済学部 教授

八木 英一郎 EIICHIRO YAGI

経営計画分析技法

新更商事(有) 代表取締役社長

関 利隆 TOSHITAKA SEKI

ファシリティプランニング

(株)バルグループホールディングス 顧問、

ワールドモードホールディングス(株) 顧問

山内 秀樹 HIDEKI YAMAUCHI

プロジェクト研究演習、
グローバル・サプライチェーン・マネジメント

日本アイ・ピー・エム(株)

IBMコンサルティング事業本部 パートナー

瀬良 征志 SEIJI SERA

プロジェクト研究演習



修了要件

修士課程

履修プログラム	修士学位取得のための必要在籍期間	必要単位等
一般履修プログラム	2学年以上	一般履修プログラム 合計39単位（社会人特別履修プログラム：36単位）を取得し、以下の要件を満たすこと。 ◎演習科目21単位（同：18単位） ◎講義科目18単位 ケース科目：2科目とも必修。 理論科目：各領域に設置されている必修科目は、5科目とも必修。 ◎修士論文の審査に合格
社会人特別履修プログラム	1.5学年以上	

<単位履修モデル>

◎一般履修プログラム（39単位）

学期	プロジェクト研究演習科目 選択必修:6	研究演習科目 必修:12	経営デザイン演習 必修:3	講義科目		必修:7, 選択:11 理論科目 ⁽¹⁾
				ケース科目 必修:2	必修:5	
第1	プロジェクト研究演習:3	研究指導演習:3	経営デザイン演習:1	講話:1	3	4
第2	プロジェクト研究演習:3	研究指導演習:3	経営デザイン演習:1	事例:1	2	4
第3	—	研究指導演習:3	経営デザイン演習:1	—	—	3
第4	—	研究指導演習:3 修士論文	—	—	—	—

◎社会人特別履修プログラム（36単位）

学期	プロジェクト研究演習科目 選択必修:6	研究演習科目 必修:9	経営デザイン演習 必修:3	講義科目		必修:7, 選択:11 理論科目 ⁽¹⁾
				ケース科目 必修:2	必修:5	
第1	プロジェクト研究演習:3	研究指導演習:3	経営デザイン演習:1	講話:1	3	4
第2	プロジェクト研究演習:3	研究指導演習:3	経営デザイン演習:1	事例:1	2	4
第3	—	研究指導演習:3 修士論文	経営デザイン演習:1	—	—	3

(1) 5領域の中から主領域と副領域の少なくとも2領域を選んで、系統的に学習する。

(1) 5領域の中から主領域と副領域の少なくとも2領域を選んで、系統的に学習する。

講義科目は1時限100分で、合計7時限をもって1単位とします。

※プロジェクト研究演習は、原則として土曜日午前または午後の2時限を用います。

博士後期課程

原則として3学年以上在学。指導教員の行う研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および試験に合格しなければなりません。

開講時間

平日：午前2時限（8:50～10:30、10:40～12:20）
 午後3時限（13:10～14:50、15:05～16:45、17:00～18:40）
 夜間2時限（18:55～20:35、20:45～21:35）

土曜日：午前2時限（8:50～10:30、10:40～12:20）
 午後3時限（13:10～14:50、15:05～16:45、17:00～18:40）

※社会人特別履修プログラムは、原則として、平日夜間と土曜日のみで修了可能です。

履修プログラムと入試制度

	修士課程		博士後期課程
授与学位	修士(経営工学)		博士(経営工学)
履修プログラム および標準修業年限	一般履修プログラム：2年制	社会人特別履修プログラム：1.5年制	—
主な入試制度	<ul style="list-style-type: none"> 一般入試(外国学生含む) 技術経営リーダーAO入試⁽¹⁾ 特別選考入試⁽²⁾ 推薦入試 	<ul style="list-style-type: none"> 特別選考入試 社会人特別履修プログラム生⁽³⁾ 	<ul style="list-style-type: none"> 一般入試(社会人含む) 推薦入試

(1) 技術経営リーダーAO入試は、2026年4月入学以降の募集を停止いたします。本制度志願者ご注意ください。

(2) 特別選考入試は、社会人、奨学生等が対象となります。詳細な出願条件は入試要項にてご確認ください。

(3) 実務経験5年以上を要します。詳細な出願条件は入試要項にてご確認ください。

【経営デザイン専攻Webページ > 入試情報】

<https://www.bdm.waseda.ac.jp/admission/>

【理工学術院Webページ > 入試情報(修士課程・博士課程)】

https://www.waseda.jp/fsci/admissions_gs/

アクセス・お問い合わせ



西早稲田キャンパスへのアクセス

◎電車で

JR山手線 高田馬場駅下車 徒歩15分
地下鉄東京メトロ東西線
西武新宿線

JR山手線 新大久保駅下車 徒歩12分

地下鉄東京メトロ副都心線 西早稲田駅下車 出口3(早大理工方面口)がキャンパスに直結

地下鉄大江戸線 東新宿駅下車 徒歩15分

◎バスで

都バス 早大理工前下車 徒歩3分
(池86) 池袋駅東口→渋谷駅東口
(早77) 新宿駅西口→早稲田
(高71) 高田馬場駅前→九段下

お問い合わせ

早稲田大学大学院 創造理工学研究科 経営デザイン専攻

〒169-8555 新宿区大久保3-4-1 tel. 03-5286-8042 e-mail : office@bdm.waseda.ac.jp

<https://www.bdm.waseda.ac.jp>

www.bdm.waseda.ac.jp



早稲田大学大学院 創造理工学研究科
経営デザイン専攻

